

米国出張接続日記

9/11テロでフライトキャンセル 「強制された休暇」付き

文●藤本一男
text by Kazuo Fujimoto

はじめに

出張先からネットに接続することは今や普通のこと。それでも海外出張となると、いろいろと試してみたいことがあるし、新しい経験が待っているものだ。出張（旅）先からのメールはアドレス帳さえ整備されていけば日常的な操作となんらかわりない。Webレポートとなると、デジカメの画像を効率的にhtmlファイルに貼り込んだり文章をうめこんだり、と多少は腕のみせどころ(?)もあるというもの。

そんなわけで、今回の米国出張でもあちらでの接続環境の体験を含めていろいろとやってくることにしていた。

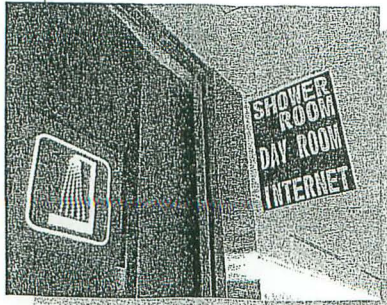
それに今回は、あの9月11日のテロにも遭遇してしまい、予定していた帰国便がキャンセルとなり、Webでさまざまな情報を集めながら、メール、FAXを駆使して帰国便を確保するというエクササイズまでついでいる。

そんなこんなの体験記。もちろん、失敗話も沢山あります。皆様、同じ失敗をなさいませんように。

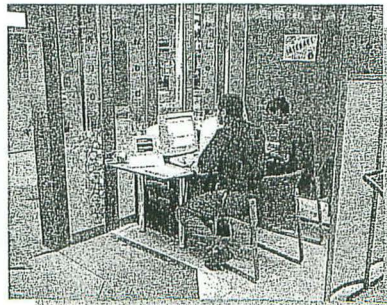
成田空港のインターネットサービス

空港の案内パンフレットを見るとインターネットサービスがのっている。案内所で聞くと、トランジットの時などに使うリフレッシュルームでサービスのひとつとして提供されているというので、搭乗手続きのあと探してみた。すると、写真のように、シャワーの看板の下に、INTERNETの文字がある。中に入ってみると、PCの脇

看板



30分300円のインターネットスペース (成田空港)



に100円を入れる箱がついている。30分300円。一昔前のビジネスホテルのテレビみたいだ。すでに先客もいてマシンがふさがっていたのと、フライトの時間も迫っていたので今回の利用はパスした。

ホテルでのアクセス

さて、アメリカまでの長い飛行を終え、空港から迷い迷いレンタカーでホテルまでたどりつくと、まずは、接続である。

会社のメールシステムが、直接入ることができないしろものなので、@nifty (<http://www.nifty.com>) か world.std.com (<http://world.std.com>) に転送することになっている。いっしょに来ている先輩は、@niftyのアクセスポイントに接続。こちらは、40円/分。同じでは面白くないので、私は、world.std.comにMSN/UUnet経由で接続することにした。こちらは、2ドル/1時間(4円/分)で、@niftyの十分の一。よく見たら、@niftyもUUnetのアクセスポイントからのローミングであった。なんだ、電話をかけるところはいっしょだ。

過去の失敗。市内につないでも 市外接続料金を取られる

滞在地は、ノースキャロライナのRaleigh (ローリー)。ここにあるアクセスポイントに市内通話でつなぐ。しかし、市内局番の919をつけてダイヤルすると「市外扱い」で課金されてしまう。市内なら、50セント(60円)で、

つなぎ放題。市外は、2ドル少々(240円)から従量制課金。市内のつもりで頻りに切ったりつないだりするので、大変な金額の請求書をもらうことになる。何日か滞在するときは、フロントに頼んで途中で明細をみせてもらったほうがいい。

@niftyに比べてWorldにつないで、インターネットに入るほうが安そうなのだが、UUnetと

リスト1

world.std.comにUUnet/MSN経由で接続するスクリプト
(マシンはWindows 2000 Professional)

```
C:\WINNT\System32\ras*world.SCP
; Script to world.std.com via UUNET
proc main
  waitfor "ogin:"
  transmit "UU/world^M"
  waitfor "assword:"
  transmit "world^M"
  waitfor "ogin: "
  transmit "fujimoto/ppp^M"
  waitfor "assword:"
  transmit "*****^M"
endproc
```

worldとloginが2回ある。@niftyの設定は簡単。毎回、手入力しているとまどろっこしいので、自動接続のスクリプトを書く(リスト1参照)。

何度もつなぐのだから、自動化したほうがいいに決まっている。しかし、こういう作業は、ホテルに入ってからやるものではないとしみじみ思う。一度ではうまくいかないで、デバッグ……。なにしに来てんだか、と思わずにいられない。ケーブルをつないでホイっ、ていかないものかと思う。後半で触れる常時接続は、ホイ、に近かった。

市内通話だと、つなぎっぱなしにしたくなるが、ローミングが従量制だから、そういうわけにもいかない。結局、時計とにらめっこして、オンラインでメールの返信を書くようにしながら、15分くらいで切るようにしていた。ダイヤルアップのつらいところだ。

これで、とにかかくにも、インターネット接続を確保して、メールも読めるようになる。Web出張報告もこれで準備OK。さて仕事。

9/11テロでフライトキャンセル、空港閉鎖

メール環境のおかげで(でもないが)仕事も順調にすすみ、仕事の最終日。その朝、仕事に向かうべく、先輩をロビーで待っていたら、あの衝撃的な事態にリアルタイムで遭遇してしまった。

同じホテルに泊まっている人が「おい、ニュース見たか!」とロビーのソファにいた私に聞く。なんですかと聞き返せば、飛行機がニューヨークでビルに突っ込んだのだという。んなあ、まさか、と思って、ロビーのテレビの前にいけばすでに2機目も突っ込んだところ。その時点では、11機ハイジャックされた、という情報も流れ

ていたが、なんとも信じられない光景がテレビに写し出されている。

急いで会社に向かったが、こちらでも皆テレビにくぎつけ。仕事にならない。空港は閉鎖。当然、我々の帰国のフライトはキャンセルである。幸い、地理的に離れたところだったので、直接の影響はなかったが、完全に動けなくなってしまった。格安チケットだから、日程の変更はダメときいていたが、こういう事態でもだめなんかいな。ま、あわててもしょうがない、とまずは落ち着け、と自分にいきかせる。

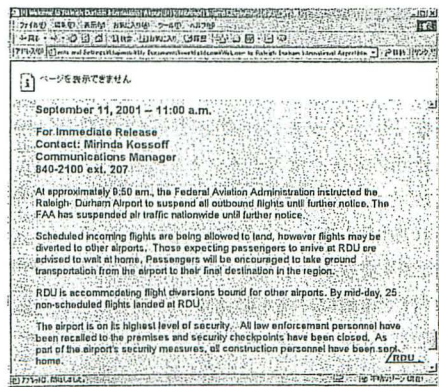
朝のニュースの直後から、ホテルはどこも一杯。レンタカーもではってしまったらしい。国内便で移動する予定だったビジネスマン諸君がみんな車で移動に変えたからだという。

私達は、その日、予定の仕事が無事に終えたものの、帰るに帰れない。それなら、海にでも行くかと、「強制された休暇」を楽しむことにした。つれあいに電話して、海にいってくる、といったら、アメリカ中が大変なのに、あんたはなに考えてんの、とあきれていたが、「大変」だったって、街の様子はいつもどおりだし、ニューヨークまでかけつけて、ボランティアでもしてこいっていうか……。日本でニューヨークの映像ばかりを見てるとアメリカ中があんなだと思っただろうけど。もともと、そのおかげで、学生たちからも御心配メールをもらえたのです。

ショッピングモールなどの多くがシャッターを降ろしていたが、あれは、献血に行くので店を閉めてるんだと、地元の人が話してくれた。そういう意味では、街は反応していた。

会社に、海に行ってくる、とメールすれば、連絡をと

空港閉鎖のアナウンスの画面。ローリー・ダラム空港のWeb
(<http://www.rdu.com>)



れるところに来てくれというので、どこにいても電話、FAXはもちろん、メールも読めるから、御心配なくと返信。そして、海に行くことにする。ホテルの予約はもちろんWeb。やはりインターネットは便利なものだ。

空港の状態をウォッチしながらビーチへ —強制された休暇—

Webが使えるから、日本語の新聞サイトも読める。インターネットだから当たり前といえば当たり前だが、こういう事態になって、テロだ戦争だ報復だ、という文字がおどる現地の情報だけでなく、日本での報道を読めるというのは心強い。もっとも、テロの直後のニュースは、現地で見ているCNNなどの焼き直しばかりで、あまりニュース性はなかった。でも、asahi.comには、現地での情報の交換のための掲示板も開設されたので、私たちと同じように、アメリカで足止めをくらった人たちの試行錯誤を知ることでもできて助かった。

それに、閉鎖された空港の状態も、空港のWebさえ見ていれば、海や山のリゾートにいても、確認できるわけである。ずっと閉鎖されているようなら、引き続き山にも行くか、などと冗談（誰かさんは半ば本気……）も飛んでいた。

で、ビーチである。実はアメリカで海水浴ができる海岸に行くのは初めて。どこかでみた光景だと思ったら「ジョーズ」にでてくる海岸。日本の海水浴場のように、サザエの壺焼きや海鮮丼、イカの姿焼き、なんてものはない。あるのはみんな「おしゃれなレストラン」。デートにはいいかもしれないが、こちらは、先輩とオジサン2人旅である。なんかもったいな気もした。消防士さんたちが、星条旗を町じゅうに掲げていた。

さて、問題のホテルのアクセス環境だが、市内通話は無料の表示。しかし「市内通話」でも、無料の局番と有料の局番があるらしいことがわかる。電話会社のサービス形態の違いなのかもしれない。

ところが、これがつながらない。つながってもすぐに切れる。しょうがないので市外通話で先の滞在先、Raleigh市内のアクセスポイントに接続する。多少はマシになるとはいえ、これも安定していない。それならと、Worldの拠点ボストンにまでも電話してしまったが、事態はあまり変らなかつた。モデムの相性なのだろうか。

おかげで頻繁に接続を繰り返す。そして、ビーチ1泊の電話代金は、62ドル（7,400円）。一晩でだ。それも、ほとんど接続できてないのだから、なんてことか……。

Amenities

FREE Continental Breakfast, 24 hour coffee service, HBO, ESPN, CNN, Headline News, and the Weather Channel. Additionally, our hotel offers outdoor pool, fitness center, dataports, voice mail, business center with FREE internet access, hairdryers, and in-room coffee makers. Upon request, availability of rollaway beds, cribs and refrigerators on premises.



電話は使えるはずだからインターネットはどこからでも使えるはず、という思い込みは見事に裏切られた。接続は、やはり、やってみないとわからない。希望的観測、思い込み込みは危険である。

先輩と、やっぱ、ビーチはなあ、などと話しながら帰路についたが、車の中でホテルの案内を読み直していたら、ビジネスセンターでインターネットフリーアクセスを提供という説明があるではないか。ホテルのサービスのアメニティの項目に、ヘアドライヤーやコーヒーマーカーのサービスと並んで書いてある。そういうもんかいな、と思いながらくやしがあったが、あとの祭り。車は、フェリー乗り場まで来てしまっていた。ビーチのホテルだって、インターネットフリーアクセスである。よく調べておきよかった。

メール依存の落とし穴

Raleigh市内に戻ってきたのは、やっと確保できた日曜のフライトで帰国する予定だったからなのだが、なんと、これがまたもや、キャンセル。

空港の閉鎖は解除されて、徐々に飛ぶようになっていたのだが、フライトは、まだまだ不安定。キャンセルが判明したのが実に金曜日の夜。ということは日本はすでに土曜日。わが上司たちが、会社のメールを読むかどうかかわからない。日曜日に帰国する予定で、月曜日から予定をいれてくれている。さてどうやって連絡しようか。電話があるではないかと思うかもしれないが、実は、上司の自宅の電話番号も控えてこなかった。アシスタント女史の電話もわからない。

しょうがないので、彼女の友人の携帯にメール。彼女に伝言してもらうことで、なんとかなった。なるほど、こういうこともできるか、やはりメールはすごいな、など思いながらも、メールだけに頼っていると休日などは、連絡がとれないこともあることを認識。

こういう緊急事態なんだから、部下を海外出張させている上司には、メールをチェックする義務を課しても

いいと思う。それに、会社のWebページにID、パスワードでloginできるような非常時連絡先一覧のページを置けばいい。これは帰国後、会社に提案させてもらった。ついでにいえば、緊急時のWebブラウザからアクセスできるメールも必要だ。サポート部門などは、24Hコールセンターとして窓口をもっているのだし、そこでメールを読んでもらって、緊急連絡網にディスパッチしてくれればいいと思う。

今後は、こういう緊急時連絡網としてのインターネットの使い方をする局面も増えるかもしれない。まあ、あまりあって欲しくはないが。

ブロードバンド常時接続

さて、また「休暇」が延びてしまった。今度は、常時接続サービスのあるホテルに泊まることにする。WinGate Innというホテル (<http://www.wingateinn.com/Wingate/control/home>)。

ホテルの部屋での常時接続の設定などどうやるのかと思ったら、いたって簡単。

LANの設定で、IPアドレスをサーバからもらうようにPCを設定し、ケーブルを接続ボックスにつなぎ、Web

ブラウザを起動するだけ。これで使えてしまう。ブロードバンドで常時接続。速い。つながりっぱなしである。

もうさすがに、山に行こうなどとは言わずに、帰国してからまとめることになる出張報告書をこっちで書き上げてしまうことにした。といいながらも、先輩はスニファーをつないでいたし、私は、そのホテルのビジネスセンターのマシンの共有環境づくりにいそしんでしまった。

で、わかったのが、IPアドレスはクラスAのプライベートアドレス。他の部屋のマシンは見えない。つまりLANにはなっていない。私のPCと先輩のPCを共有環境でつなぐには、やはり、おたがいのマシンをケーブルでつながないといけなかった……。セキュリティ上、そうなっているのだろう。

このWeb (www.lodgenet.com)には、同様のサービスを提供しているホテルの一覧などがのっている。

ビジネスセンターの使い勝手

このホテルには、ビジネスセンターがあって、ここにもPCが一台。プリンタも使い放題。しかし、日本語のフォントが入ってなかったので、ダウンロードしようとしたが、これはNG。このマシンへのSaveを許してないので、残念ながら、日本語を使えるようにはできなかった。

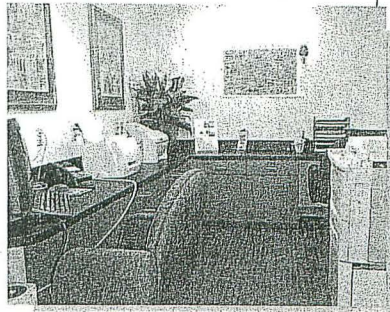
出張先の会社の友人の自宅を訪問した時にPCをお借りして、日本語のサイトにつないだら、日本語のフォントのダウンロードが始まり、すぐに日本語で使えるようになった。彼の自宅は、CATVで常時接続。数メガのフォントファイルなんてなんてことない。日本で、ハングルフォントや中国語フォントが自動的にダウンロードされる様子は経験していたが、アメリカの英語環境パソコンで日本語が使えるようになったのはなかなか感動ものであった。実に、便利になったものだと思っていたが、企業内や共用設備のPCでは、この機能は使えないこともあるのだ。だから、緊急連絡先Webページやメールは、英語だけのページも必要になる。

常時接続の時間感覚の不思議さ

それはともかく、今度はキャンセルにならないでくれよと祈りながら（でもないのですが）会社とメールをやりとり。仕事もたっぷり。

こちらが夕食も終わって、シャワーを浴びてトランク

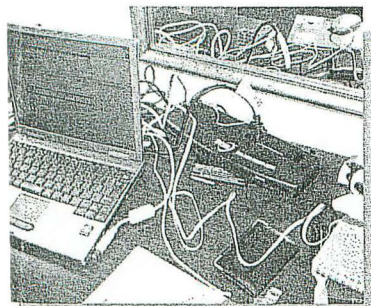
ビジネスセンター



初期画面 IEを起動すると、初期設定メニューにより、そのあと、インターネットにつながる。
<http://www.lodgenet.com>



接続BOXとPC



ス一枚でくつろいでいるところに、会社からメール。わがアシスタント女史から「ふじもとさん、おはようございます」とくる。始業時間の日本の9時、ホテルの夜8時を過ぎると、私宛やら、cc:で配信されるものやら、ピョンコピョンコ、さみだれ的に入ってくる。ダイヤルアップで読む時は、こっちのペースで読み書きしていたが、常時接続というのは、ちよいと雰囲気が違う。

スクリーンの向こうに、同僚たちの机が並んでいる気分になってくる。ディスプレイから日本の時間が流れ出してくる感じすらする。やべえ、とズボン履いてシャツを着た。

これじゃ、24時間仕事になってしまう。常時接続も善し悪しである。

飛行機の中から「休講通知」

結局、日曜のフライトは大丈夫ということになって無事帰国とあいなった。

影響としては、講演を一本キャンセル。準備していたAさんSさん、ごめんなさい。大学は、後期の一回目を休講。学生諸君、スマン。会社の仕事は、同僚達のおかげでなんとかなっていた。感謝。

で、最後の実験として、国内便の座席についている電話からメールを送ってみることにした。ハイジャックされた飛行機でも使われ、悲しくも感動的なドラマを演出したあれである (<http://www.airfone.com>)。

料金はクレジットカード払いで、音声は、接続に3.99ドル (480円)、通話に3.99ドル (480円) /分。データ通信は、接続料金無料で、通話が、1.99ドル (240円) /分、である。

データポートにモデムのケーブルをつないでダイヤルアップ。すぐにつながったが、通信速度は、なんと

4800bps。遅い。

学生諸君にも休講の通知を送ったので時間がかかったのだが、10分少々つないでしまった。あとで、送られてきたクレジットの請求書を見ると、27ドル (3,200円)。これが1回の接続料金。ピーチの62ドルについて高くてしまった。まあ、これも授業料ということか。

さすがに、飛行機からもメールを送ったということで、「執念の接続、ですね」なんて感想メールもいただいていた。確かに、執念かもしれない……。

ちなみに、常時接続のホテル (WinGate Inn) では、通信費の出費ゼロ。インターネットは無料。市内通話も無料。国際電話もかけたのに、課金されてなかったなあ。快調につなげていた一番最初のホテルでは、7日間で、33ドル (3,600円) だった。つまり、一日あたり、500円程度でかなりの通信が可能だったということになる。

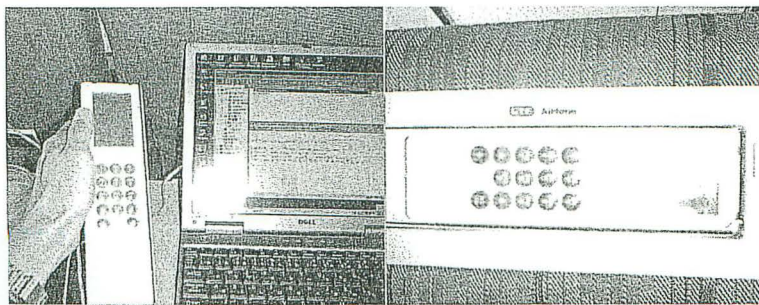
出張期間を通して請求されたWorldへのUUnet/MSNのローミングサービスの料金は、20.6ドル (2,500円) であった。1日あたり、230円程度 (1時間弱の接続か) ということになる。合計11本の写真付きWeb報告 (日記) をサーバにアップロード。報告を更新しましたというメールとあわせて、仕事でのメールのやりとりも膨大な数であったから、通信量からすればやはり安いもんだと思う。

シカゴ空港のインターネットサービス

日本への帰路。シカゴ空港でも、案内所でインターネットサービスはないかと聞いてみた。すると、LaptopLaneというビジネスセンターで接続サービスを提供しているというので見学に行く。

経営は、Wayport (<http://www.wayport.com>)。しか

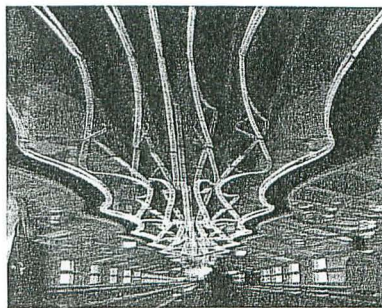
airfoneでメール送信



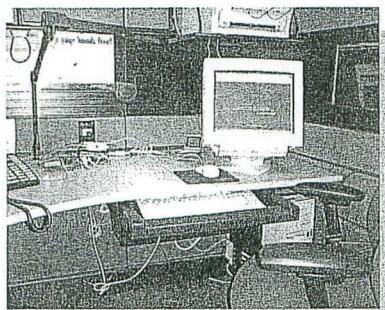
LapTopLaneの概観



コンコース間通路のネオン



ブースの様子



し、料金が安い。5分で2ドル。たった5分でですよ、5分。ここでは、ダイヤルアップ接続も、ブロードバンド接続もやっている。しかし、高すぎるので試す気にもならなかった。

帰国してから、このサービスについての記事をいくつか読んだがなかなか厳しいものが多かった。メールのやりとりなら、携帯電話+PCですんでしまうのではないか、という。そうだと思う。

Wayportは、空港やホテルで高速接続サービスを提供しているが、無線接続サービスもしているとか。ウリは「どこでもオフィス」環境だという。空港で生じる無駄な待ち時間を仕事時間に転換しよう、ということらしい。私のように、出張の時に生じる「無駄時間」を楽しんでしまう者は叱られているような気分になるパンフレットである。

ちなみに、この空港のコンコースの移動で通る通路には、カラフルなネオン。「2001年宇宙の旅」の、モノリスに入っていって、StarGateをくぐっていくところみたいだった。

おわりに

初めて米国出張を経験したのが1987年で、その時に、

NIFTY-ServeとCompuserveに入っていた。当然CompuserveからNIFTY-Serveにメールを送れるもの、と信じていたのに向こうについてからパソコン通信間ではメール交換もできないことを思い知らされた。クローズなメールの世界があったなんて、今となっては太古の昔の話のようだ。1996年正月に個人Webをworld.std.com上に作った。この直後の米国出張では、むこうからWebで写真付きレポートをつくってみた。DOSとWindows 3.1を駆使した力わざ。それも懐かしい思い出。今やWebページを作成しサーバに載せることもなんと簡単になったことか。

今回は、歴史的な大事件にも遭遇しながら、インターネットを駆使する貴重な経験までしてしまった。その意味でも、ネットが社会化していることをしみじみと味わった出張となった。

この原稿がみなさんの目にとまるのは、クリスマスも過ぎ、2002年になろうとしている頃だろうか。ニューヨーク、アメリカはどうなっているだろう。アフガニスタンはどうなっているだろう。秋にあった小学校の同窓会で再会したニューヨーク勤務の友人は「友達がおおぜい死んだ」と言っていた。職場の同僚の友人は未だに消息不明である。滞在延長中の日曜日、友人が教会の集会に招いてくれた。テロ、暴力に対して暴力による報復は無意味だと説いていた教会は、報復戦開始以降、どのような説教をしているのだろうか。

とんでもない21世紀にしないために、私達はなにができるのだろうか。この私も考えていきたいと思う。

●筆者プロフィール

藤本一男 fujimoto@tsuda.ac.jp
 メモレックス・テレックス株式会社勤務
 津田塾大学「情報と社会」担当、非常勤講師
 同大学 数学・計算機科学研究所客員研究員